



100年企業社員の わが社の **ひみつ**

社員の方の日常 **アレコレ** からわかる、
100年企業の魅力。



日本ネーミング大賞2022で社名「シャボン玉石けん」が優秀賞!

#時代を超えて愛され続ける
#わくわくするネーミング
#審査員長は太田光さん



市内小学校で配布されているSDGsの副読本「ケン化法」で手間暇かけて丁寧に作るこだわり。

#学校ではテストもあって
#受けた社員のお子さんは
#満点とったよ、とニコリ



昔ながらの釜吹き製法「ケン化法」で手間暇かけて丁寧に作るこだわり。

#1週間~10日かかるけど
#天然の保湿成分が残る
#お肌にやさしい製法



社員が趣味で作るグッズやキャラ弁にシャボン玉石けんが愛がたっぷり。

#ピロー包装だから…
#ピローケース作ってみた
#色んな種類のマグカップも



沖縄県糸満市に「シャボン玉石けんくくる糸満」が2022年4月オープン!

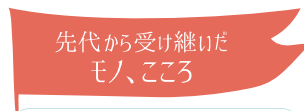
#初のネーミングライツ契約
#観光文化交流拠点施設に
#シャボンちゃんがダウン!



先代社長の娘さんの笑顔をモチーフに生まれたいシャボンちゃん。

#いつの時代も愛されキャラ
#社員にも愛されすぎて…
#石けんでシャボンちゃん像

- シャボン玉石けん株式会社
 - 本社: 〒808-0195 北九州市若松区南二島2-23-1 TEL.093-701-3181
 - 創業: 1910(明治43)年(森田範次郎商店)
 - 従業員: 145名(2023年1月現在)
 - 販売事業部(シャボン玉販売株式会社)・東京支店・通販事業部(株式会社シャボン玉本舗)・企画事業部(有限会社シャボン玉企画)
 - 事業概要: 無添加石けん各種製品の製造・販売
- (ホームページ) <https://www.shabon.com>



先代社長の故森田光徳さんが命名したキャラクター「シャボンちゃん」と社名と企業理念「健康な体ときれいな水を守る。」を継承していくことが、シャボン玉石けんの根幹を支えています。



中高校生向けの「北九州ゆめみらいワーク」への参加や、インターシップ、オンライン工場見学など採用の取り組みはさまざま。2022年10月は「わかまつ・おしごとパーク」で子どもたちに石けんづくりを体験してもらいました。

100↑



わかまつ 若松レガシー

2023 R5 O3

シャボン玉石けん株式会社

石炭の積出港として日本の近代化を支えた若松の誇り、100年企業を紹介するシリーズです。



113年を迎えた「シャボン玉石けん株式会社」のひみつを探ってみた。

日用雑貨の商店から石けん卸売業へ

1910(明治43)年、石炭景気で賑わう若松で一旗あげようと、雑貨商「森田範次郎商店」を創業。当時、石炭荷役などで働く人が汚れた体や服を洗う石けんのニーズにいち早く着目し、石けん卸売業に転換。その後、家庭で電気洗濯機が普及するタイミングで、合成洗剤の製造・販売を開始します。時流に乗って売上を伸ばし、1965(昭和40)年には小倉北区に移転し、「森田商事(株)」と社名変更しました。

無添加石けんオンリーへの一大転換

転機が訪れたのは1971(昭和46)年。国鉄(現JR)から無添加石けんの注文が舞い込み、その試作品を使ってみると、当時の森田光徳社長が長年悩まされてきた原因不明の赤い湿疹が治ったのです。湿疹の原因が自社の主力製品である合成洗剤だったことに気づき、「体や環境に悪いと分かった商品を守るわけにはいかない」と一大決心。1974(昭和49)年に無添加石けんの製造・販売に切り替えました。ところが安心・安全な原料で手間暇かけて作る石けんは、割高になるためか世間からは見向きもされない状況に。売上は100分の1、社員は5名までに激減した

無添加石けんのパイオニアの使命「健康な体ときれいな水を守る。」

こともありました。赤字は17年も続きましたが、それでも変わらぬ信念を貫き、1987(昭和62)年には若松の現在地に新工場を建設して移転。社名も「シャボン玉石けん(株)」に改めました。

企業理念の実践がサステナビリティに

1991(平成3)年に出版された『自然流「せっけん」読本』を皮切りに、無添加石けんの愛用者が増え始めると、商品1割引購入の会員制度「シャボン玉友の会」を設立。以降、環境汚染への意識変革や安心・安全志向などの時流もあって、シャボン玉石けんの名は全国でも知られるようになりました。このほか自然環境に負荷が少ない泥炭・森林火災用の石けん系消火剤なども開発し、インドネシアをはじめ、国内外で注目。コロナ禍では石けん(オレイン酸カリウム)の抗ウイルス効果が話題になりました。根幹にある企業理念「健康な体ときれいな水を守る。」の実践を通して、約50年前から持続可能な社会の実現に努めています。

主な事業内容【無添加石けんの製造・販売】
化粧石鹸やシャンプー・リンス・ハミガキなどの化粧品、洗濯用や台所用・重曹・クエン酸・酸素系漂白剤などの家庭用品、消火剤の製造・販売



発行/若松プライド・プラスワン推進協議会(北九州市 若松区役所 総務企画課内) TEL.093-771-3559



この「若松レガシー」はポートレース若松の事業費の一部を活用して作成しています

東邦チタニウム株式会社 東邦チタニウム株式会社は当事業に協賛します

令和5年3月発行



休日は子どもと遊ぶことが多い2児の父。リフレッシュタイムは年に1~2回訪れる沖縄・宮古島のシュノーケリング。

【インタビュー】

社長さんに聞いてみた。——シャボン玉石けん株式会社 代表取締役社長 森田 隼人さん

「経営理念が社員全員に腹落ちして、同じ方向を向いている」と森田社長。石けんの自然環境への好影響を示す実証実験にも取り組んでいます。

—113年続いてきた原動力は何でしょうか？

祖父の雑貨商店から父の代で石けん卸売業へ。さらに無添加石けんひと筋に特化していく中で大切にしてきたのは、先代が打ち立てた企業理念「健康な体ときれいな水を守る。」です。これを企業の根幹とし、軸がぶれない経営を続けてきたことが大きいと思います。

えない方もいる。お届けし続けなければ」と使命感に駆られます。また、工場見学も多い年で年間1万5千人。コロナ禍ではオンラインで行っていますが、そうした機会に私はもちろん、工場の社員もお客さまのリアルな声に触れ、やりがいや誇りにつながっていると思います。

—シャボン玉石けんの強みや魅力は？

今では平均年齢が34歳と若い社員が多く、コミュニケーションが活発なのが特長です。強みは、父自身の肌荒れが治ったことをはじめ、実体験から「本当にいいもの」と確信していること。社員もシャボン玉石けんを使っていますが、商品のよさや、企業理念がしっかりと腹落ちした上で、全員で同じ方向を目指して進んでいるのが一番の強みです。

—今後の展望について

宗像市の地島(じのしま)で「未来の海を守る 島まるごと無添加石けん生活」と題し、石けんが生活排水や生物に与える影響を調べる実証実験を行いました。3カ月間、島の各家庭や小学校などでシャボン玉石けんを使った結果、石けんは微生物の多様性を高め、海の環境に好影響を与えることが明らかに。新たな挑戦の後押しになりそうです。

—社長にとってのやりがいや働きがいは？

30年以上自社で通信販売も行っており、お客さまの声が直接耳に入ります。すべて社員に回覧していますが、中にはお子さんの酷い肌荒れが改善されたなど熱い感謝のお手紙もあり、その度に「無添加石けんじゃないと使

—社長の好きな言葉やモットーは？

父から語り継がれた本居宣長の言葉で「好信楽」。何事もまずは好きで、信じて楽しむこと。たとえばシャボン玉石けんが好きならば、そのよさを信じて、普及させるには楽しむこと。そこに活路が開けるのだと思います。

シャボン玉石けん 113年の軌跡

時代	年	出来事	年	出来事
明治	43 (1910)	若松で「森田範次郎商店」創業	3 (1991)	『自然流「せっけん」読本』を出版。低迷からの転機
	3 (1914)	市政施行により若松市となる	19 (2007)	3月、長男の森田隼人が社長に就任。9月、森田光徳会長が逝去。10月、長年の研究が実り、一般建物用消火剤「ミラクルフォーム」販売開始
	24 (1949)	法人設立「(株)森田商店」に	21 (2009)	林野火災用消火剤の研究を本格スタート。感染症対策研究センター設立
	38 (1963)	五市合併。若松市から若松区へ	22 (2010)	創業100周年
	39 (1964)	森田光徳が社長に就任	25 (2013)	JICAプロジェクトでインドネシアの泥炭・森林火災用消火剤の開発に着手
	40 (1965)	本社を小倉北区に移転し「森田商事(株)」に社名変更	元 (2019)	インドネシアの森林・泥炭火災用消火剤の取り組みで環境省グッドライフアワード「環境大臣賞 企業部門」受賞
	46 (1971)	無添加石けんの誕生	3 (2021)	「未来の海を守る 島まるごと無添加石けん生活」生活排水の影響に関する実証実験プロジェクト(宗像市・地島)
	49 (1974)	無添加石けんの製造・販売に切り替え、売上は激減。半数以上の社員を失う		
	50 (1975)	シンボルマーク「シャボンちゃん」誕生		
	62 (1987)	若松に新工場を落成し移転。「シャボン玉石けん(株)」に社名変更		



環境や地域、住民に優しく、無添加石けんのできることを。

若松みなと祭りでは「五平太ばやし」の常連。

これまで開催されてきた夏の風物詩「若松みなと祭り」の常連で、「五平太ばやし(樽太鼓打ち)」ではチーム優勝経験もあるシャボン玉石けん。祭りのある年には、仕事終わりに練習を重ね、個人の部でも若手社員の健闘が光ります。無添加石けん愛だけでなく、社会貢献や地元愛にアツいのも100年企業の魅力です。

若松の「子ども食堂」でボランティア活動。

シャボン玉石けんは、北九州市内の子ども食堂への台所用石けんや手洗い石けんの寄贈など積極的に行っています。毎月1回、本社のある若松区の「子ども食堂・くれかちゃん」には若手社員3~4人がボランティアとして参加。食事の支度を手伝ったり、子どもたちに正しい手の洗い方をレクチャーしたり、一緒に遊んだりしています。



シャボン玉石けん X SDGs 北九州市と「SDGs包括連携協定」。

シャボン玉石けんは、企業理念の実践こそが持続可能な社会の実現につながるとし、これまで北九州市と連携して、産業観光や市内の子ども食堂への商品寄贈、石けん系消火剤の開発などさまざまな取り組みを行ってきた企業。2019(令和元)年12月には市と「SDGs包括連携協定」を締結し、さらなるSDGsの推進を強化しています。

